

風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2012 秋号

60

公益財団法人 和歌山県文化財センター

特集 神前遺跡・井辺遺跡の出土遺物

特集 神前遺跡・井辺遺跡の出土遺物

神前遺跡の出土遺物

神前遺跡は「風車52号」でも二次調査の成果を紹介しましたが、今回は神前遺跡から出土した弥生時代から古墳時代の遺物に重点を置いて記します。

神前遺跡は和歌山市神前に所在し、北側は井辺遺跡に隣接しています。

発掘調査は県道と歌山橋本線改良工事が行われることになり、それに先駆けて平成二十一年度～平成二十三年度の三ヶ年に渡り発掘調査を行いました。

見つかった遺構（生活の痕跡）には弥生時代前期から江戸時代までのものがあり、遺構からは各時代の遺物が出土しています。このことから、この辺りには人々の生活が連綿と続いていたことが窺われます。

神前遺跡で見つかった最も古い遺物は、弥生時代前期（紀元前二五〇年）のもので、殆どが溝から出土しています（写真1～3）。

溝は北東方向

から南西方向

に流れていた

と考えられ、

弥生時代から

古墳時代まで

の十数条が見

つかっており、

これらの溝が

ほぼ同一の方

向性をとるこ

とや分岐して

いること、そ

の断面形がV

字形やU字形

を呈している

ことから用水

路と考えられ

ます。また、



写真3



写真2



写真1

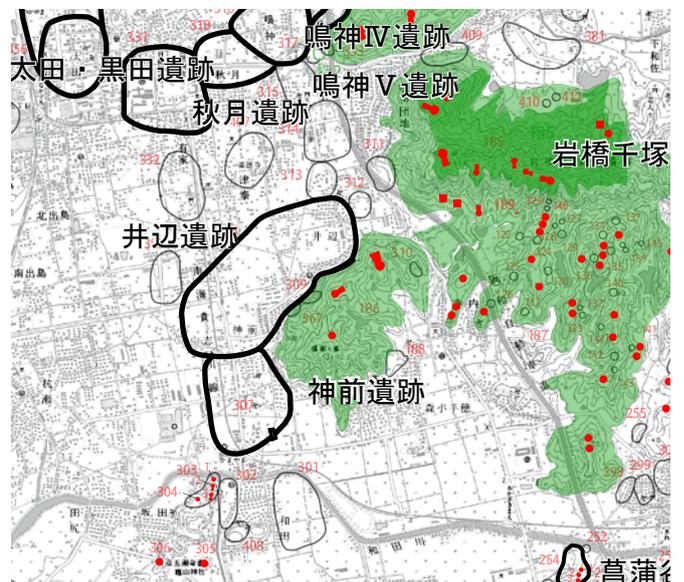


図1 調査位置図 (1:50,000)

和歌山市が行った調査で、今回の調査地の東側で弥生時代の水田跡を見つけているため、用水路として機能していた可能性は大きいと考えられます。

弥生時代前期の土器の特徴は、胎土には多くの砂粒が混じり、器



写真4



写真5

面には貼付突帯やヘラ状の工具により幅二ミリメートル程度の沈線文を数条あるいは多条に頸部や体部に施し壺を装飾しています(写真4・5)。

また、甕は紀伊形甕と呼ばれるものが一般的で、胎土には粗い砂粒を多量に含み、器面をヘラ状工具で削っています。紀の川下流域で作られた土器には粗い片岩粒が混ざっているため一目でわかります(写真6)。なお、壺・甕・鉢の底部は平底と呼ばれる扁平な円盤形状をしています。これは弥生時代全般を通して見受けられます。



写真6

弥生時代中期の土器は壺や高杯にみられるように器面調整はヘラ状工具により器面表面の砂粒を沈め、光沢を出すために磨かれています。施文は前期の多条沈線文の施文方法の流れで、クシ状工具により頸部や体部に直線文や流水文・波状文・簾状文が多用され、貼付突帯や凹線文と組み合わせる施文されています(写真7・8)。甕は前

期の延長で中期中葉までは紀伊形甕が残っています

が、それ以降の器面調整はタタキ技法に変わっていきまます。タタキ技法は土器の成形と粘土内の気泡を抜くために板状工具により叩き締められたと考えられ、合わせて器面装飾の意味合いももっていたと思われまます。

弥生時代後期になると壺などの加飾は控えられ、中期の土器に見られたような華やかさは無くなり簡素なものへと変わっていきまます。壺の口縁端面には凹線



写真7



写真8



写真9

文や浮文が加飾される程度で、器面調整はヘラ状工具により磨かれています。甕や鉢の器面はタタキ調整され成形されています(写真9)。

弥生時代も終焉を迎え、古墳時代にはいと底部の平底は一部残るものの、丸底へと変貌していきます(写真10・11)。体部外面の器面調整はハケ調整が施され、内面はシャープなヘラ削りにより器壁を薄く仕上げられています。

概観ではありますが、弥生時代から古墳時代までの土器の様相を時期に沿ってみてきましたが、このように土器が変貌していく様は、人々の生活様式の変化に大きく関与していると考えられています。

(佐伯和也)



写真10



写真11

井辺遺跡及び神前遺跡の出土遺物

井辺遺跡(308)及び神前遺跡(307)は、紀の川下流域南岸の平野東部に位置し、福飯ヶ峯(標高一〇一m)の山麓に立地する弥生時代の集落遺跡です。今回の調査は、都市計画道路松島本渡線(神前南)道路改良工事に伴い発掘調査を平成二十二年度と平成二十三年度に行いました。

井辺遺跡は、和歌山市井辺・神前に所在し、遺跡の範囲は東西約一、二〇〇m、南北約五〇〇mにもおよびます。また、神前遺跡は、井辺遺跡と北側で接しており、和歌山市神前に所在し、遺跡の範囲は南北約七〇〇m、東西約四五〇mにおよびます。

調査地は、神前遺跡と井辺遺跡に分かれます。神前遺跡では、弥生時代から古墳時代にかけての溝十数条と谷状地形、鎌倉時代の溝と耕作痕を検出しました。井辺遺跡2011・3・4区では、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての大量の土器が廃棄された溝および大量の木製品・建築部材を伴う自然流路、古墳時代後期の畑と考えられる畝状遺構及び土坑列を検出しました。



図1 調査位置図(1:50,000)

井辺遺跡2011・4区の南から南東部分では、幅10m前後の4259自然流路を検出しており、井辺遺跡2010・1・2区においても、この自然流路の延長を検出しています。

自然流路は、弥生時代後期には、流水状態で機能しており、弥生時代終末期以降に水流が弱まり滞水状況を呈し、徐々に埋没していったことが窺えます。

最終埋没時期から、古墳時代中期以降には湿地となっていたと推定されます。自然

然流路からは、多量の完形土器とともに、木製品・建築部材が出土しており、集落縁辺部における自然流路の水利について具体的な材料を提示するこ

ととなりました。また、自然流路肩部には形代等の祭祀具や、小型丸底壺やミニチュア土器を供献しており、水の祭祀に関わる跡と推定することができま



写真2 井辺遺跡4区 4259
自然流路下層全景(北東から)



写真1 井辺遺跡4区 4260・3065 溝
遺物出土状況(北北東から)

す。(土井孝之)



弥生土器 細頸壺



弥生土器 甕



土師器 直口壺



弥生土器 広口壺



弥生土器 器台



弥生土器 土製支脚



銅鏃



銅製耳環



雑具 椅子 (脚部)



祭祀具 剣形木製品



紡織具 織機



建築部材 屋根形木製品



農具 横槌

熊野那智大社災害復旧事業

一年を経過して

昨秋に発生した台風十二号の土砂災害から一年となる九月四日、熊野那智大社の本殿や大瀧において復興祈願祭が執り行われ、災害復旧事業の進捗が報告されるとともに、復興にむけ未だ多くの課題が残ることが再認識されました。

現在を進めている第一殿ほか七棟の事業は、昨年度中に境内地の土砂撤去を完了し、本年二月より破損した木部の補修や檜皮屋根の葺き替え、長時間豪雨や土砂に晒されて劣化の進んだ塗装の塗り替えなど、重要文化財建造物の本格的な修理工事を実施する第二期に着手しました。

境内の土砂を全て取り除いたところ、倒壊していた瑞垣部分や第五殿の柱が傾斜していた他には、土石流による木部の破損が縁高欄の一部材に限られるなど、予想以上に建物が土砂の圧力に耐えていたことがわかりました。



今回の修理工事においては、文化財としての価値を保持するため、可能な限り解体範囲を抑えることに留意し、倒壊した瑞垣の補修などにおいても破損箇所以外は原則解体せずに施工する手法を選択しました。補強工事も含め結果として極めて効率的に木工事の作業が実施でき、檜皮屋根葺き替えまでを早期に完了できたのは、和歌山県内で長く文化財を専門とする職人と共同で



写真1 第五殿建て起こし状況
柱頭部で最大45mm程度傾斜していたが、縁廻りなど周囲の解体を伴わなくとも、十分な建て起こし作業を実施できた。

培ってきた技術の積み上げの成果ともいえます。非常時の限られた時間と労力の中で対応がありますが、和歌山県内の文化財を守るというという、当和歌山県文化財センターの原点を実感させられる事業となっています。

今年十二月末までに、全ての作業が完了する予定です。
(多井 忠嗣)



写真2 御県彦社廻り瑞垣の復旧状況
木部の組立および檜皮屋根の葺き替え、旧塗装のケレンまでが完了している。

古建築修理の逸話② 名勝和歌の浦妹背山三断橋整備事業

平成二十二年八月、玉津島神社を中心とした和歌の浦干潟などが、白浜町円月島と共に日本国にとって芸術上又は観賞上価値の高いものとして記念物『名勝』に指定されました。

名勝とは、自然的な名勝と人工的な名勝に区分されます。前者は、自然が造り上げた人智の及ばない景観、那智の滝、橋杭岩などをいいます。後者は、養翠園、和歌山城西の丸庭園など、人工的に造り上げた庭園をいいます。名勝和歌の浦は、この二つが組み合わせり指定された類い希なる名勝なのです。

神が造った名勝和歌の浦。抜けるような青い空、雲は動き、水平線には幾十にも重なる長峰山脈、手前の名草山、章魚頭姿山に囲まれた大パノラマ空間のなかに、片男波の砂州を境に、大海原から波が打ち寄せ、和歌の浦干潟は生命の循環を示すかのように潮の満ち引きにより姿形を変えます。一石で出来た伽羅岩の玉のように美しい玉津島が存在します。全てが動的に躍動し、一瞬たりとも同じ風景は存在しません。紀ノ川下流域の空間は、神が造ったと意識したのです。

今後天満宮、東照宮などの追加指定では、『名勝』と共に『史跡』での指定も考えられています。記念物（史跡、名勝、天然記念物）全てで指定できる場所は、全国では唯一、名勝和歌の浦のみなのです。



徳川頼宣公が父家康公を東照宮に、母お万の方を妹背山多宝塔に祀りました。慶安四年（1651）頃、造られた三断橋。幾度かの台風により満身創痍です。今年度、当センターが本格的な整備事業を行います。



藤代峠御所の芝から見た和歌浦湾。後白河法皇が熊野道で最も美しいと言った景色。運如上人が浄土をみた空間、私たちは今同じ風景を見ることが出来ます。

きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

発掘屋余話⑱ 二つの文化

井筒和幸監督の『パッチギ』はいい映画でした。塩谷瞬・沢尻エリカ主演。たしかあの年（二〇〇五）のキネマ旬報の第一位でした。とりわけラストシーン、主題歌「あの素晴らしい愛をもう一度」が流れるまでの十五秒ほどの二人の演技は感動でした。純真無垢。後年、芸能界をお騒がせすることになる二人とはとても思えません。

ところで、あの映画の基調にあるのは在日朝鮮人の問題でした。舞台となった京都には、今なお多くの在日の方々が暮らしていますし、歴史的に見ても平安京遷都にあたっては渡来系の有力氏族・秦氏の力があつたと言われています。

同じように古代の和歌山、とくに紀の川河口域も古くから韓半島の影響を強く受けた地域ですね。このことは考古学的にも明らかです。思いつくままに挙げれば大谷古墳出土の垂飾付耳飾・馬冑、車駕^がの古墳出土の金製勾玉、楠見遺跡や六十谷遺跡から出土している陶質土器・初期須恵器などの遺物のほか、国内でも比較的早い段階で竈^{かま}付の住居がつけられていたり、新しい埋葬方法である横穴式石室をいち早く導入したりと渡来人もしくはその系譜をひく人たちの姿を垣間見ることが出来ます。（このへんは和歌山市立博物館の図録『渡来文化の波』二〇〇一に詳しいです。あの図録はいいですよ。お薦めしておきます。）

当センターでは、今年からこの地域（平井Ⅱ遺跡）での大規模な発掘調査に着手しており、何が出てくるか楽しみにしているところです。

それはともかくお互いの文化を尊重し、二つの文化が融合されると何か芳醇な香りが醸し出され、一国の文化に彩りを添える気がします。その意味では二つの文化を追い求めることはいいことですね。二股はダメですけど――。

（村田 弘）

催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報 (2012年 秋～冬)

(公財)和歌山県文化財センター

- 歩いて知るきのくに歴史探訪 ～慈尊院と高野山町石道～ 2012年10月20日(土)
遺跡や文化財などの見どころを説明したマップをもとに、講師や専門職員による解説を聞きながら、慈尊院とその周辺、高野山町石道などを歩きます。参加無料・事前申し込み不要。

和歌山県立紀伊風土記の丘

- 古墳公開②「風土記の丘の古墳見学会 ～大日山35号墳とその周辺～」
2012年10月 6日(土)
- 特別展「紀伊弥生文化の至宝」
2012年 9月29日(土)～12月 2日(日)
- 民家公開②「県指定文化財旧谷村家住宅・県指定文化財旧小早川家住宅」
2012年11月 3日(土)～ 4日(日)
- 古墳現地ガイドツアー①「前山地区の古墳をめぐる」
2012年11月24日(土)

和歌山県立博物館

- 特別展「よみがえる軍艦・エルトゥール号の記憶」
2012年 9月 8日(土)～10月11日(木)
- 特別展「高野山麓 祈りのかたち」
2012年10月20日(土)～12月 2日(日)
- 企画展「和歌の浦の風景」
2012年12月 8日(土)～2013年1月20日(日)

和歌山市立博物館

- 特別展「ヘンリー杉本とその時代」
2012年10月20日(土)～11月25日(日)

高野山霊宝館

- 秋の展覧会「天皇の霊宝－王朝が見た高野山－」
2012年 9月29日(土)～12月16日(日)

目次

- 1 表紙 井辺遺跡4区 3065・4260 溝 土器出土状況北側(南から)
- 2 特集「神前遺跡・井辺遺跡の出土遺物」
- 6 文化財建造物課 短信「熊野那智大社災害復旧事業～一年を経過して～」
- 7 きのくに歴史小話「古建築修理の逸話② 名勝和歌の浦 妹背山三断橋整備事業」
「発掘屋余話 ⑧二つの文化」
- 8 催し物案内

(公財)和歌山県文化財センター 連絡先一覧

風車60 (2012・秋号)

平成24年9月28日発行

(公財)和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp>

【事務局】

〒640-8404 和歌山市湊571-1
TEL 073-433-3843
FAX 073-425-4595
maizou-1@wabunse.or.jp

【文化財建造物修理事務所】

◎金剛三昧院保存修理事務所
〒648-0211 伊都郡高野町高野山425
TEL/FAX 0736-56-5578

【埋蔵文化財課分室】

〒640-8345 和歌山市新在家61-4
TEL/FAX 073-472-3710